



《彩委柿文壺》東京国立近代美術館蔵

2015年
12月8日 火
2016年
1月31日 日

のすべて

石黒宗麿

最初の人間国宝

I s h i g u r o M u s e u m a r o

- 開館時間＝午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
*金曜日は午後7時閉館(入館は午後6時30分まで)
- 休館日＝2015年12月14日[月]・21日[月]・24日[木]・28日[月]～
2016年1月4日[月]・12日[火]・18日[月]・25日[月]
*会期中、一部展示替えがあります。
- 入館料＝一般 500円(400円)／大学生 400円(320円)
高校生 250円(200円)／小中学生 100円(80円)
60歳以上 250円(200円)
*()内は10名以上の団体割引料金
*小中学生は土・日曜日及び休祝日は入館無料
*毎週金曜日は渋谷区民入館無料
*障がい者及び付添の方1名は入館無料
- 主 催＝渋谷区立松濤美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
- 協 賛＝ライオン／清水建設／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網
- 協 力＝日本通運



渋谷区立 松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421 <http://shoto-museum.jp>

最初の人間国宝

石黒宗麿

のすべて



石黒宗麿

(1893-1968)は

特定の師を持たず、

古陶磁に学びながら、

独創的な陶芸と書画の世界

に生きた陶芸家です。昭和30

(1955)年に重要無形文化財保持者

(人間国宝)の制度が誕生すると、富本憲

吉、濱田庄司、荒川豊蔵と共に、初めての認

定を受けました。

その作品は自由な精神と卓越した技術、感性に裏付け

されたもので、単なる伝統の模倣にとどまることはなく、

近代感覚に溢れ、生き生きとした独自の世界を創りあげています。

なお、石黒は大正10(1921)年には松濤に住み、窯を築いており、

この地に縁のある人物でもあります。

本展は、綿密な作品調査によって選定した陶芸作品約130点と書画約35点を、

近年の研究に基く新たな制作年代順に展示、紹介します。石黒宗麿の本格的な

回顧展は20年ぶりです。自らを異端と称した石黒の斬新で品格のある世界をぜひ

お楽しみください。

1《緑褐釉線刻仏図壺》茨城県陶芸美術館蔵

2《千点歌文鉢》射水市新湊博物館蔵

3《赤絵仏図平茶碗》射水市新湊博物館蔵

4《柚絵金彩鳥文鉢》個人蔵

5《虎図》個人蔵

6《黒釉線刻野牛文鉢》愛知県陶磁美術館蔵

7《赤絵魚花文々々富貴茶碗》個人蔵

8《赤葉茶碗》個人蔵

●記念座談会 12月12日[土] 午後2時～「石黒宗麿作品の魅力について」
青柳恵介氏(古美術評論家)、尾久彰三氏(古民芸研究家)、小野公久氏(陶芸ジャーナリスト)

*要入館料 *事前予約の必要はありません *直当天館地下2階ホールへお越しください

●ギャラリートーク 12月26日[土]・1月15日[金]・1月24日[日] 午後2時～
陶芸ジャーナリスト・小野公久氏による特別ギャラリートークです。

*要入館料 *事前予約の必要はありません

●メゾプラノとピアノのコンサート 1月9日[土] 午後4時～

出演 谷本綾香(メゾプラノ)、松尾久美(ピアノ) *参加費500円 定員80名(応募多数の場合は抽選)

*事前申し込みが必要です。詳細は美術館HPでご確認ください。

●記念シンポジウム 1月10日[日] 午後1時～

小野公久氏(陶芸ジャーナリスト)、金子賢治氏(茨城県陶芸美術館館長)

唐澤昌宏氏(東京国立近代美術館工芸課長)、野積正吉氏(射水市新湊博物館主任学芸員)

*要入館料 *定員50名(応募多数の場合は抽選) *事前申し込みが必要です。詳細は美術館HPでご確認ください。

●館内建築ツアー 12月18日[金]・1月15日[金] 午後6時～6時30分 *定員20名 *要入館料

●次回展のご案内 2016 松濤美術館公募展 2016年2月14日[日]～28日[日]



[交通案内]

JR・メトロ渋谷駅下車徒歩15分・京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

 松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART
〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
TEL. 03-3465-9421
http://shoto-museum.jp